

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

| | |
|------|----------|
| 学校名 | 四国学院大学 |
| 設置者名 | 学校法人四国学院 |

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

| 学部名 | 学科名 | 実務経験のある教員等による授業科目の単位数 | | | | 省令で定める基準単位数 |
|---|-----------------|-----------------------|---------------------|----------|-----|-------------|
| | | 全学 共通 科目 | 学部 等 共通 科目 | 専門 科目 | 合計 | |
| 文学部 | 人文学科 | 495 | 0 | 0 | 495 | 13 |
| 社会学部 | カルチュラル・マネジメント学科 | | 0 | 0 | 495 | 13 |
| 社会福祉学部 | 社会福祉学科 | | 0 | 0 | 495 | 13 |
| (備考) 本学では、全ての開講科目が学部等に関わらず履修可能であるので、全学共通科目に全ての当該科目単位数を算定している。 | | | | | | |

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

| |
|--|
| https://www.sg-u.ac.jp/academics/syllabus/ WEB シラバスより検索→検索条件のキーワードに「実務家教員」と入力して検索。 |
|--|

3. 要件を満たすことが困難である学部等

| |
|-----------|
| 学部等名 |
| (困難である理由) |

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

| | |
|------|----------|
| 学校名 | 四国学院大学 |
| 設置者名 | 学校法人四国学院 |

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.sg-u.ac.jp/officer-list/>

2. 学外者である理事の一覧表

| 常勤・非常勤の別 | 前職又は現職 | 任期 | 担当する職務内容 や期待する役割 |
|----------|--------|-------------------------------|---|
| 非常勤 | 教会牧師 | 2017.11.18 ～ 2020.11.17 | 理事長としてこの法人を代表し、その業務を総理する。理事を統括する。 |
| 常勤 | 町役場助役 | 2016.11.30 ～ 2019.11.29 | 常務理事として理事長を補佐し、この法人の業務を分掌する。 人材開発担当役員(CHO)として職員の人事やSDに関する業務を管理運営し統括する。 |
| (備考) | | | |

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

| | |
|------|----------|
| 学校名 | 四国学院大学 |
| 設置者名 | 学校法人四国学院 |

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

| | | | | | |
|---|---|-------|-------|-------|------|
| 1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。 | | | | | |
| (授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) | | | | | |
| <p>本学では「四国学院大学履修規程」第17条により、以下のとおり定めている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業科目の概要や評価方法等、講義の運営について詳細に記載したシラバスを新年度の履修登録期間までに、本学ホームページ上で公開するものとする。 2 授業担当教員は、別に定める『シラバス作成ガイドライン』を遵守して、前項のシラバスを作成しなければならない。 <p>そして、『四国学院大学シラバス作成ガイドライン』を用いたFD・SD研究会を全専任教職員対象で年一回以上必ず開催し、作成方法についての共通理解を深めた上で、作成作業を開始している。作成されたシラバスは、各学部長と担当職員で構成された第三者チームにより確認を行い、不備があれば必要に応じて修正依頼を行う。修正結果について再確認を行い問題が無ければ、最終的に学部長が承認することにより、本学ホームページ上の「シラバス」ページから検索可能なシラバスとして公開される。</p> | | | | | |
| 授業計画書の公表方法 | https://www.sg-u.ac.jp/academics/syllabus/ | | | | |
| 2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。 | | | | | |
| (授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) | | | | | |
| <p>学修の成果に係る評価については、『四国学院大学シラバス作成ガイドライン』で、シラバスの「評価方法」欄に、レポート〇%や定期試験〇%等、具体的な評価方法と配点の割合を明記しなければならないことが定められている。その上で、「四国学院大学学則」第26条により定められている以下の成績評価基準について、シラバスの「評価基準」欄に明記している。各授業科目の成績は、100点を満点とし、60点以上を合格とする。</p> | | | | | |
| | 合格 | | | | 不合格 |
| 評点 | 100～90 | 89～80 | 79～70 | 69～60 | 59以下 |
| 表示 | A | B | C | D | E |
| G P | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
| 成績評価 | 優 | 優 | 良 | 可 | 不可 |
| <p>各授業担当教員は、シラバスにより学生にあらかじめ示した客観的な評価方法・基準のとおりに学修成果の評価を行い、これに基づき単位の授与又は履修の認定を行っている。</p> <p>また、「授業科目ごとGPA」や「教員ごとGPA」等の資料を用いて、各授業担当教員が学修成果を厳格かつ適正に評価しているのか検証するためのFD・SD研究会を全専任教職員対象で適宜開催することで、共通認識の醸成に努めている。</p> | | | | | |

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

本学では全学部共通で、成績評価の客観的な指標として GPA を導入するため「四国学院大学成績評定平均値 GPA に関する規程」を制定し、2010 年度より施行している。

GPA の算定方法は、以下のとおりである。

第 4 条により、評価された成績の段階ごとに、下記 GP を配点することを定めている。

- (1) 優 A (90～100) GP=4
- (2) 優 B (80～ 89) GP=3
- (3) 良 C (70～ 79) GP=2
- (4) 可 D (60～ 69) GP=1
- (5) 不可 E (0～ 59) GP=0

第 5 条により、GPA の種類及び計算方法を以下の通り定め、本学学部学生全員の成績評価に適用している。

(1) 学生ごと GPA

イ 学期ごと GPA

一学期の、一授業科目の成績評価で得た GP に、当該一授業科目の単位数を乗じる計算を、当該一学期に成績評価を受けた授業科目分行い、その合計を、当該一学期に成績評価を受けた授業科目の単位数の合計で除して算出する。

ロ 通算 GPA

入学時からの現在の学期までの、一授業科目の成績評価で得た GP に、当該一授業科目の単位数を乗じる計算を、入学時からの現在の学期までに成績評価を受けた授業科目分行い、その合計を、入学時からの現在の学期までに成績評価を受けた授業科目の単位数の合計で除して算出する。

また、第 8 条により、履修登録修正期限までに履修登録を取り消した場合及び教学担当副学長による履修登録の変更の措置が行われた場合を除き、履修を放棄した科目の成績は、不可として扱うことを定めている。

「四国学院大学成績評定平均値 GPA に関する規程」については、本学ホームページ上の「教育情報の公表」ページにおいて公表している。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

<https://www.sg-u.ac.jp/wp-content/uploads/2019/05/四国学院大学成績評定平均値 GPA に関する規程.pdf>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

本学では「四国学院大学学則」第 1 条第 2 項に基づき、下記のとおりディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）を定めている。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）】

四国学院は、キリスト教信仰による人格の尊厳と自由を基盤として、人が生涯にわたって必要とする、豊かな人間性の醸成に寄与する教育を行うことを使命として、以下の資質を修得したものに学位を授与する。

<全学部全学科共通ポリシー>

- 1) 現代社会に必要とされる広い視野から学問の基礎を固めて生涯にわたって学ぶ資質
- 2) 自他両者を批判的に分析して創造的な思考と実践を自律的に行う資質
- 3) 希望を抱ける社会と人間を築くことを目的として、人間関係を形成できる資質

<各学部学科ポリシー>

文学部 人文学科

- A. 人間と世界を深い感受性のもとに理解でき、自立的考察と創造的表現をできる資質
- B. 人間性の尊重と同時にその諸限界を理解できる資質
- C. 個別学問領域を越えて横断的に人間が抱える現代社会の主要課題を考察できる資質

社会学部 カルチュラル・マネジメント学科

- A. 人間が造りだした文化を深く理解して、その充実発展に取り組むことができる資質
- B. 文化をエンタテインメント、そしてスポーツを保健・体育・競技と捉える狭隘な図式を越えて、それらを広く、人間の豊かな文化活動として把握することができる資質
- C. 文化を通して、自他ともに互いに包摂しあう空間あるいは社会の創造に寄与できる資質

社会福祉学部 社会福祉学科

- A. 現代社会を社会福祉の視点から分析し課題を発見できる資質
- B. 人間の「苦しみと悲しみ」に出会うことができる豊かな感性を錬磨できる資質
- C. 社会福祉のために勇気をもって課題解決を模索し真摯に取り組むことができる資質

また、「四国学院大学履修規程」第2～4条により以下のとおり卒業要件を定めている。

(卒業の要件)

卒業の要件として、本学学部学生は、次表の通り、合計130単位以上を修得しなければならない。

| 科 目 | 最少単位数 | 合 計 |
|--------|-------|-----|
| 教養教育科目 | 40 | 130 |
| 専門科目 | 90 | |

(教養教育科目)

教養教育科目は、教養教育基礎科目から20単位、外国語科目から4単位、科学研究入門科目群から16単位、合計40単位を修得しなければならない。

(専門科目)

専門科目は次表の通り、4種に分け、合計90単位以上を修得しなければならない。

| 科 目 | 最少単位数 | 合 計 |
|------|-------|-----|
| 基礎科目 | 18 | 90 |
| 専攻科目 | 22 | |
| 選択科目 | 42 | |
| 卒業研究 | 8 | |

そして「四国学院大学学則」第27条により、本学に4年以上在学し、卒業要件で定める所定の単位や、ディプロマ・ポリシーで定める資質を修得した者については、教授会の議を経て学長が学士の学位を授与することを定めている。

「ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）」及び「卒業要件」については、本学ホームページ上の「教育情報の公表」ページにおいて公表している。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

https://www.sg-u.ac.jp/outline/public_info/

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

| | |
|------|----------|
| 学校名 | 四国学院大学 |
| 設置者名 | 学校法人四国学院 |

1. 財務諸表等

| 財務諸表等 | 公表方法 |
|--------------|---|
| 貸借対照表 | https://www.sg-u.ac.jp/wp-content/uploads/2019/06/2018貸借対照表.pdf |
| 収支計算書又は損益計算書 | https://www.sg-u.ac.jp/wp-content/uploads/2019/06/2018資金収支計算書.pdf https://www.sg-u.ac.jp/wp-content/uploads/2019/06/2018活動区分資金収支計算書.pdf https://www.sg-u.ac.jp/wp-content/uploads/2019/06/2018事業活動収支計算書.pdf |
| 財産目録 | https://www.sg-u.ac.jp/wp-content/uploads/2019/06/2018財産目録.pdf |
| 事業報告書 | https://www.sg-u.ac.jp/wp-content/uploads/2019/06/2018事業報告書.pdf |
| 監事による監査報告(書) | https://www.sg-u.ac.jp/wp-content/uploads/2019/06/2018監査報告書.pdf |

2. 事業計画(任意記載事項)

| | |
|-------------|---------|
| 単年度計画(名称:) | 対象年度:) |
| 公表方法: | |
| 中長期計画(名称:) | 対象年度:) |
| 公表方法: | |

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

| |
|---|
| 公表方法: https://www.sg-u.ac.jp/outline/report/own_check_report/ |
|---|

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

| |
|-------|
| 公表方法: |
|-------|

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

| |
|---|
| 学部等名 文学部 人文学科 |
| 教育研究上の目的 (公表方法： https://www.sg-u.ac.jp/outline/public_info/01-2/) (概要) <p>文学部は、建学の理念であるキリスト教を根幹に、それぞれの専門分野における基礎学術的技能を陶冶育成することを通して、真に民主的で開かれた社会を形成実現していく自律的市民の育成を目標としている。文学部人文学科は、本学において長い歴史を有する学科である。戦前・戦中期日本において、集団主義への迎合のもと、偏狭な自文化・自民族中心主義へと閉塞していった過ちへの悔い改めとともになされた建学時の歴史的決断を揺籃にして、それらは形成されてきた。それはまた、リベラル・アーツを重視し、異文化異言語研究、哲学的文学的人間研究や地理歴史研究、平和学研究、そして教育という人間にとっての根幹的な営みの探求という研究分野において、自文化の相対化と他文化理解、自己と他者と世界への深い理解、異他的な存在の受容と理解と育みといった、グローバル化する現代において、どれもまた最も重要な人間的資質の形成に一貫して取り組んでいる。そして、さらにそれぞれの専門領域と関係する諸分野において、学生の卒業後の職業選択とも深く関わってくる資格取得のための諸カリキュラム整備も積極的に展開している。</p> |
| 卒業の認定に関する方針 (公表方法： https://www.sg-u.ac.jp/academics/univ_policy/) (概要) <p>四国学院は、キリスト教信仰による人格の尊厳と自由を基盤として、人が生涯にわたって必要とする、豊かな人間性の醸成に寄与する教育を行うことを使命として、以下の資質を修得したものに学位を授与する。</p> <p>A. 人間と世界を深い感受性のもとに理解でき、自立的考察と創造的表現をできる資質 B. 人間性の尊重と同時にその諸限界を理解できる資質 C. 個別学問領域を越えて横断的に人間が抱える現代社会の主要課題を考察できる資質</p> |
| 教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： https://www.sg-u.ac.jp/academics/univ_policy/) (概要) <p>思想、文化、社会、ことば、教育の各領域にわたる諸問題の考究を通し、広い視野と、深い洞察力をもった人物を社会に送り出すことを目的とする。このため、カリキュラムは、1年次では、読み、書き、表現することを初めとしたジェネリック・スキルの習得に重点をおき、2年次以降は、文学、哲学、歴史学・地理学、英語、平和学、学校教育の6つのメジャー（主専攻領域）の中から一つ以上を選択し、それぞれについて集中的に学習するように構成されている。それぞれのメジャーには学びの進化をめざして基礎科目、専攻科目が配置され、その集大成として4年次の卒業研究を必修とする。また、多様な文化に対応し共存できる能力を養うために、他のメジャーの科目を含めた幅広い選択科目の履修ができるようにする。加えて、小学校及び幼稚園教諭（一種免許状）の養成課程も設ける。</p> |

| |
|--|
| <p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.sg-u.ac.jp/academics/univ_policy/)</p> |
| <p>(概要)</p> <p>文学、哲学、歴史学・地理学、英語、平和学、学校教育といった領域に対し、幅広い知識を身につけることを通して真理を探究する強い関心を持ち、その探究を通して現代を生き抜く知恵と力を身につけることに深い熱意を持つ者。また、さまざまな知識のもとで、言葉を通してコミュニケーションと文化に関して深く学ぼうとする意志と資質を持つ者。学校教育においては、教育という営みとその理念について科学的および芸術的アプローチを通して追求することに関心と熱意を持ち、その実践として、小学校、幼稚園の教員になろうとする強い意志を有する者。</p> <p>入学者選抜においては、上述の領域に関係する知識、学的スキルのみならず、思考の深みと豊かさ、判断力、表現能力、そして、主体性に裏づけられた協働指向性と異者の受容性を基準とする。具体的には、記述試験に加えて、入学者それぞれの個性や長所、潜在能力等を多角的に評価するためのグループワークやインタビュー等の評価方法も活用する。</p> |

| |
|---|
| <p>学部等名 社会学部 カルチュラル・マネジメント学科</p> |
| <p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.sg-u.ac.jp/outline/public_info/01-2/)</p> |
| <p>(概要)</p> <p>社会学部の教育目的は、本学建学の精神である神と人への奉仕の姿勢をもとに、理論的かつ体験重視型のカリキュラムを通して多様で複雑な広義の社会事象を、深く理解する人間を養成することにある。高度情報化社会において、的確に必要な情報を収集し、また効果的に発信していくスキルの修得、そして、卒業後それぞれの社会活動の現場において必要とされる創造的な「課題探究・処理能力」を修得することをめざす。</p> <p>地域との強い連携で、国内外での現場実践研究（フィールド・プラクティカム）科目を積極的に取り入れ、地域と世界の情報収集や情報発信などを通して、卒業までに学生が幅広い教養＋実践的専門力が修得できる編成となっている。</p> |
| <p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.sg-u.ac.jp/academics/univ_policy/)</p> |
| <p>(概要)</p> <p>四国学院は、キリスト教信仰による人格の尊厳と自由を基盤として、人が生涯にわたって必要とする、豊かな人間性の醸成に寄与する教育を行うことを使命として、以下の資質を修得したものに学位を授与する。</p> <p>A. 人間が造りだした文化を深く理解して、その充実発展に取り組むことができる資質 B. 文化をエンタテインメント、そしてスポーツを保健・体育・競技と捉える狭隘な図式を越えて、それらを広く、人間の豊かな文化活動として把握することができる資質 C. 文化を通して、自他ともに互いに包摂しあう空間あるいは社会の創造に寄与できる資質</p> |

| |
|---|
| <p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.sg-u.ac.jp/academics/univ_policy/)</p> |
| <p>(概要)</p> <p>社会学部の教育目的は、次世代の経済社会における重要な視点の一つとして、広義の文化を基盤とするマネジメント（カルチュラル・マネジメント）の知識や技術の提供と、実践研究を行うことにある。カリキュラムの基本体系は、（1年次）…「初年次教育」としてジェネリック・スキルに焦点を合わせた幅広い基礎教養の提供、（2、3年次）…既存の社会学部5コースを、メジャー（主専攻領域）として発展的に拡充した社会学、メディア&サブカルチャー研究、観光学、身体表現と舞台芸術マネジメント、国際文化マネジメント、情報加工学、ベースボール科学、健康・スポーツ科学の8分野におけるカルチュラル・マネジメントの実践的体験と、これをサポートする専門知識や技術の提供、（4年次）…カルチュラル・マネジメントの総合的スキルを活かした、実践的課題探求の実施。このように教養教育科目をベースに、2年次以降の専攻領域での順次性を持ったカリキュラムを通じて、学生が問題解決能力を修得し、それぞれの社会の現場で成果を挙げていくことをめざすとともに、カルチュラル・マネジメントという新しい概念の研究成果を地域社会に還元し、地域活性化に貢献することを目的とする。</p> |
| <p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.sg-u.ac.jp/academics/univ_policy/)</p> |
| <p>(概要)</p> <p>多様で複雑な現代社会を様々な視点から理解することにつとめ、「社会学」「メディア&サブカルチャー研究」「観光学」「身体表現と舞台芸術マネジメント」「国際文化マネジメント」「情報加工学」「ベースボール科学」「健康・スポーツ科学」のいずれかの専攻領域に強い関心を持ち、カルチュラル・マネジメントの理論及び体験を通して得た成果を地域社会に還元し、地域活性化に貢献しようとする者。</p> <p>入学者選抜においては、上述の領域に関係する知識、学的スキルのみならず、思考の深みと豊かさ、判断力、表現能力、そして、主体性に裏づけられた協働指向性と異者の受容性を基準とする。具体的には、記述試験に加えて、入学者それぞれの個性や長所、潜在能力等を多角的に評価するためのグループワークやインタビュー等の評価方法も活用する。</p> |

| |
|--|
| <p>学部等名 社会福祉学部 社会福祉学科</p> |
| <p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.sg-u.ac.jp/outline/public_info/01-2/)</p> |
| <p>(概要)</p> <p>社会福祉学部の教育は、本学建学の精神に則り、神と人ともに奉仕する精神を根底に懐き、社会福祉学を基幹とする。その上で、その原理論に基づく価値の追求と共に、①マクロ的視点—国際的あるいはグローバルな視野にたった地域問題の把握とその解決策の追求、②メゾ的視点—地域に根ざした住民ニーズの把握や支援施策・活動のありかたの追求、③ミクロ的視点—個々の福祉サービス利用者の主体的側面にたった生活ニーズの把握と効果的な援助方法の追求、これらの三つの視点をカリキュラムの特色とする。そして、その成果として意欲的に実践活動を展開できる人材の養成をめざしている。</p> |

| |
|---|
| <p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.sg-u.ac.jp/academics/univ_policy/)</p> <p>(概要)</p> <p>四国学院は、キリスト教信仰による人格の尊厳と自由を基盤として、人が生涯にわたって必要とする、豊かな人間性の醸成に寄与する教育を行うことを使命として、以下の資質を修得したものに学位を授与する。</p> <p>A. 現代社会を社会福祉の視点から分析し課題を発見できる資質 B. 人間の「苦しみと悲しみ」に出会うことができる豊かな感性を錬磨できる資質 C. 社会福祉のために勇気をもって課題解決を模索し真摯に取り組むことができる資質</p> |
| <p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.sg-u.ac.jp/academics/univ_policy/)</p> <p>(概要)</p> <p>社会福祉は、人びとの生活と密着した学問である。机上の論としての理念や理論に終始することがないように、地域社会やそこで暮らす人びとの実情と深い結びつきを有し、かつ研究と教育を有機的に統合させた社会福祉教育を展開する。</p> <p>具体的には、社会福祉学、心理学・カウンセリング、地域社会と福祉実践、こころとからだの福祉、子ども福祉、という5つのメジャー（主専攻領域）、およびスクールソーシャルワークというマイナー（副専攻領域）を用意する。さらに、社会福祉士、精神保健福祉士、保育士、スクール（学校）ソーシャルワーカー、社会福祉主事およびその他任用資格養成のためのキャリア拡充コースを提供し、地域福祉、子ども福祉、高齢者福祉、障害者福祉、医療福祉、国際福祉等の各領域でのソーシャルワーカーとして、福祉現場や福祉行政現場に貢献できる人材育成にそったカリキュラム編成とする。</p> |
| <p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.sg-u.ac.jp/academics/univ_policy/)</p> <p>(概要)</p> <p>多様な価値観を持つ人々の生活を柔軟かつ真摯に受け止め、誰もが当たり前で暮らすことのできる社会実現のために目的意識を持って社会福祉を学び、将来的には、地域福祉、子ども福祉、高齢者福祉、障害者福祉、医療福祉、国際福祉等の各領域の実践現場や研究分野に積極的に貢献しようとする者。</p> <p>入学者選抜においては、上述の領域に関係する知識、学的スキルのみならず、思考の深みと豊かさ、判断力、表現能力、そして、主体性に裏づけられた協働指向性と異者の受容性を基準とする。具体的には、記述試験に加えて、入学者それぞれの個性や長所、潜在能力等を多角的に評価するためのグループワークやインタビュー等の評価方法も活用する。</p> |

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.sg-u.ac.jp/outline/organization/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

| a. 教員数（本務者） | | | | | | | |
|-------------------------------------|--------|---|-----|----|----|-----------|------|
| 学部等の組織の名称 | 学長・副学長 | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 助手 その他 | 計 |
| — | 3人 | — | | | | | 3人 |
| 文学部 | — | 17人 | 2人 | 0人 | 0人 | 0人 | 19人 |
| 社会学部 | — | 8人 | 3人 | 0人 | 1人 | 0人 | 12人 |
| 社会福祉学部 | — | 10人 | 2人 | 0人 | 2人 | 0人 | 14人 |
| 教養部 (一般教育) | — | 4人 | 4人 | 0人 | 1人 | 0人 | 9人 |
| b. 教員数（兼務者） | | | | | | | |
| 学長・副学長 | | 学長・副学長以外の教員 | | | | | 計 |
| 0人 | | 146人 | | | | | 146人 |
| 各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等) | | 公表方法： https://www.sg-u.ac.jp/outline/faculty/ | | | | | |
| c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項） | | | | | | | |
| | | | | | | | |

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

| a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等 | | | | | | | | |
|-------------------------|-------------|-------------|--------|-------------|-------------|--------|-----------|-----------|
| 学部等名 | 入学定員 (a) | 入学者数 (b) | b/a | 収容定員 (c) | 在学生数 (d) | d/c | 編入学 定員 | 編入学 者数 |
| 文学部 | 80人 | 98人 | 122.5% | 470人 | 326人 | 69.4% | 若干名 | 2人 |
| 社会学部 | 130人 | 160人 | 123.1% | 520人 | 556人 | 106.9% | 若干名 | 2人 |
| 社会福祉学部 | 80人 | 75人 | 93.8% | 470人 | 343人 | 73.0% | 若干名 | 1人 |
| 合計 | 290人 | 333人 | 114.8% | 1,460人 | 1225人 | 83.9% | 若干名 | 5人 |
| (備考) | | | | | | | | |

| b. 卒業者数、進学者数、就職者数 | | | | |
|----------------------|----------------|--------------|-------------------|----------------|
| 学部等名 | 卒業者数 | 進学者数 | 就職者数 (自営業を含む。) | その他 |
| 文学部 | 67人 (100%) | 2人 (3.0%) | 62人 (92.5%) | 3人 (4.5%) |
| 社会学部 | 115人 (100%) | 0人 (0%) | 101人 (87.8%) | 14人 (12.2%) |
| 社会福祉学部 | 59人 (100%) | 1人 (1.7%) | 52人 (88.1%) | 6人 (10.2%) |
| 合計 | 241人 (100%) | 3人 (1.2%) | 215人 (89.2%) | 23人 (9.5%) |
| (主な進学先・就職先) (任意記載事項) | | | | |

| (備考) | | | | | |
|---|-------------|-----------------|-----------|-----------|-----------|
| c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項) | | | | | |
| 学部等名 | 入学者数 | 修業年限期間内 卒業者数 | 留年者数 | 中途退学者数 | その他 |
| | 人 (100%) | 人 (%) | 人 (%) | 人 (%) | 人 (%) |
| | 人 (100%) | 人 (%) | 人 (%) | 人 (%) | 人 (%) |
| 合計 | 人 (100%) | 人 (%) | 人 (%) | 人 (%) | 人 (%) |
| (備考) | | | | | |

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

| |
|---|
| (概要) |
| <p>本学では「四国学院大学履修規程」第 17 条により、以下のとおり定めている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業科目の概要や評価方法等、講義の運営について詳細に記載したシラバスを新年度の履修登録期間までに、本学ホームページ上で公開するものとする。 2 授業担当教員は、別に定める『シラバス作成ガイドライン』を遵守して、前項のシラバスを作成しなければならない。 <p>そして、『四国学院大学シラバス作成ガイドライン』を用いた FD・SD 研究会を全専任教職員対象で年一回以上必ず開催し、作成方法についての共通理解を深めた上で、作成作業を開始している。作成されたシラバスは、各学部長と担当職員で構成された第三者チームにより確認を行い、不備があれば必要に応じて修正依頼を行う。修正結果について再確認を行い問題が無ければ、最終的に学部長が承認することにより、本学ホームページ上の「シラバス」ページから検索可能なシラバスとして公開される。</p> |

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

| (概要) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--------|-------|-------|-------|------|-----|-----|--------|-------|-------|-------|------|-----|---|---|---|---|---|-----|---|---|---|---|---|------|---|---|---|---|----|
| <p>学修の成果に係る評価については、『四国学院大学シラバス作成ガイドライン』で、シラバスの「評価方法」欄に、レポート○%や定期試験○%等、具体的な評価方法と配点の割合を明記しなければならないことが定められている。その上で、「四国学院大学学則」第 26 条により定められている以下の成績評価基準について、シラバスの「評価基準」欄に明記している。各授業科目の成績は、100 点を満点とし、60 点以上を合格とする。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="4">合格</th> <th>不合格</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>評 点</td> <td>100～90</td> <td>89～80</td> <td>79～70</td> <td>69～60</td> <td>59以下</td> </tr> <tr> <td>表 示</td> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> <td>E</td> </tr> <tr> <td>G P</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>成績評価</td> <td>優</td> <td>優</td> <td>良</td> <td>可</td> <td>不可</td> </tr> </tbody> </table> | | 合格 | | | | 不合格 | 評 点 | 100～90 | 89～80 | 79～70 | 69～60 | 59以下 | 表 示 | A | B | C | D | E | G P | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 | 成績評価 | 優 | 優 | 良 | 可 | 不可 |
| | 合格 | | | | 不合格 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評 点 | 100～90 | 89～80 | 79～70 | 69～60 | 59以下 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 表 示 | A | B | C | D | E | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| G P | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 成績評価 | 優 | 優 | 良 | 可 | 不可 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>各授業担当教員は、シラバスにより学生にあらかじめ示した客観的な評価方法・基準のとおりに学修成果の評価を行い、これに基づき単位の授与又は履修の認定を行っている。</p> <p>また、「授業科目ごと GPA」や「教員ごと GPA」等の資料を用いて、各授業担当教員が学</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

修成果を厳格かつ適正に評価しているのか検証するための FD・SD 研究会を全専任教職員対象で適宜開催することで、共通認識の醸成に努めている。

また、卒業の認定に当たっての基準に関して、本学では「四国学院大学学則」第 1 条第 2 項に基づき、下記のとおりディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）を定めている。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）】

四国学院は、キリスト教信仰による人格の尊厳と自由を基盤として、人が生涯にわたって必要とする、豊かな人間性の醸成に寄与する教育を行うことを使命として、以下の資質を修得したものに学位を授与する。

<全学部全学科共通ポリシー>

- 1) 現代社会に必要とされる広い視野から学問の基礎を固めて生涯にわたって学ぶ資質
- 2) 自他両者を批判的に分析して創造的な思考と実践を自律的に行う資質
- 3) 希望を抱ける社会と人間を築くことを目的として、人間関係を形成できる資質

<各学部学科ポリシー>

文学部 人文学科

- A. 人間と世界を深い感受性のもとに理解でき、自立的考察と創造的表現をできる資質
- B. 人間性の尊重と同時にその諸限界を理解できる資質
- C. 個別学問領域を越えて横断的に人間が抱える現代社会の主要課題を考察できる資質

社会学部 カルチュラル・マネジメント学科

- A. 人間が造りだした文化を深く理解して、その充実発展に取り組むことができる資質
- B. 文化をエンタテインメント、そしてスポーツを保健・体育・競技と捉える狭隘な図式を越えて、それらを広く、人間の豊かな文化活動として把握することができる資質
- C. 文化を通して、自他ともに互いに包摂しあう空間あるいは社会の創造に寄与できる資質

社会福祉学部 社会福祉学科

- A. 現代社会を社会福祉の視点から分析し課題を発見できる資質
- B. 人間の「苦しみと悲しみ」に出会うことができる豊かな感性を錬磨できる資質
- C. 社会福祉のために勇気をもって課題解決を模索し真摯に取り組むことができる資質

また、「四国学院大学履修規程」第 2～4 条により以下のとおり卒業要件を定めている。

(卒業の要件)

卒業の要件として、本学学部学生は、次表の通り、合計 130 単位以上を修得しなければならない。

| 科 目 | 最少単位数 | 合 計 |
|--------|-------|-----|
| 教養教育科目 | 40 | 130 |
| 専門科目 | 90 | |

(教養教育科目)

教養教育科目は、教養教育基礎科目から 20 単位、外国語科目から 4 単位、科学研究入門科目群から 16 単位、合計 40 単位を修得しなければならない。

(専門科目)

専門科目は次表の通り、4種に分け、合計90単位以上を修得しなければならない。

| 科 目 | 最少単位数 | 合 計 |
|------|-------|-----|
| 基礎科目 | 18 | 90 |
| 専攻科目 | 22 | |
| 選択科目 | 42 | |
| 卒業研究 | 8 | |

そして「四国学院大学学則」第27条により、本学に4年以上在学し、卒業要件で定める所定の単位や、ディプロマ・ポリシーで定める資質を修得した者については、教授会の議を経て学長が学士の学位を授与する。

| 学部名 | 学科名 | 卒業に必要となる 単位数 | GPA制度の 採用 (任意記載 事項) | 履修単位の 登録上限 (任意記載 事項) |
|-------------------------|-----------------|-----------------|------------------------------|-------------------------------|
| 文学部 | 人文学科 | 130 単位 | 有・無 | 単位 |
| 社会学部 | カルチュラル・マネジメント学科 | 130 単位 | 有・無 | 単位 |
| 社会福祉学部 | 社会福祉学科 | 130 単位 | 有・無 | 単位 |
| GPAの活用状況 (任意記載事項) | | 公表方法: | | |
| 学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項) | | 公表方法: | | |

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：https://www.sg-u.ac.jp/outline/public_info/

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

| 学部名 | 入学年度 | 授業料 (年間) | 入学金 | その他 | 備考 (任意記載事項) |
|-----|-----------|-------------|-----------|-----------|--|
| 全学部 | 2019 年度以降 | 750,000 円 | 290,000 円 | 250,000 円 | その他欄は、教育充実費。 また、3,000~110,000 円の実験実習費を、取得する資格等に応じて別途徴収。 |
| 全学部 | 2018 年度以前 | 697,000 円 | 290,000 円 | 220,000 円 | その他欄は、教育充実費。 また、3,000~110,000 円の実験実習費を、取得する資格等に応じて別途徴収。 |

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

| |
|--|
| a. 学生の修学に係る支援に関する取組 |
| (概要) 学生コモンズ支援課にラーニング・プラザを設置している。 ラーニング・プラザは学修サポートの中核を司り、クラスター・アドバイザー（1年生を指導する担当教員）、アカデミック・アドバイザー（2年生以上を指導する担当教員）、ラーニング・アシスタント（学修支援の担当職員とピア・リーダーから選抜された上級生）、ピア・リーダー（専門的な養成授業を受講して選抜された上級生）で構成される組織で、カリキュラムから資格取得のことまで、4年間を通じてきめ細やかなサポートを行っている。 また、全教員がオフィス・アワーの時間を設定しており、学生はその時間帯で教員の研究室等を訪ねて学修サポートを受けることができる。 |
| b. 進路選択に係る支援に関する取組 |
| (概要) 学生コモンズ支援課が、3年生～4年生前期にかけて、就職活動の進め方や面接指導、先輩の活動報告会など、ガイダンスやセミナーを年間約60回実施して、就職支援を行っている。 学生コモンズ支援課では、進路・就職に関する個人面談を常時行っており、スタッフが学生一人ひとりの進路希望を把握し、きめ細やかな指導を行っている。 |
| c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組 |
| (概要) 学生コモンズ支援課にキャンパス・ソーシャルワーカーを配置している。学生が学生生活を送る上で遭遇する悩みや解決課題を、ソーシャルワーカーと一緒に考え、問題解決へ向けて支援を行っている。本学の学生であれば誰でも利用可能で、利用希望者は学生コモンズ支援課にいるソーシャルワーカーを訪ねて予約を行う。 また、学内に学生相談室を設置して、担当カウンセラー（専門のトレーニングを受けた、経験豊富な専門家の臨床心理士）を2名配置している。本学の学生であれば誰でも利用可能で、利用希望者は学生コモンズ支援課で開室時間を確認して予約を行う。 |

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：https://www.sg-u.ac.jp/outline/public_info/